

FIAT 500

撮影用ウォークアラウンド台本



2018 1220

(株) AGENT-1

それでは、FIAT500 チンクエチントをウォークアラウンドのスタイルでご紹介して参りましょう。

■ “毎日をポジティブに明るく楽しく”・・・チンクエチントはそんな気分にピッタリのクルマです。

■ この丸くてキュートなフォルムに魅かれて乗り始めた女性オーナーから、名車として語り継がれる2代目「Nuova500」に憧れてお選びになったご年配の男性オーナーまで、年齢・性別を問わず「みんなに愛されるクルマ」が、このチンクエチントなのです。



■ フィアットについて少しご説明させていただきますとは、1899年にイタリア北部のトリノで誕生。これまでにたくさんの名車を生み出し、110年以上も世界中の人々に愛されているカーブランドなんです。



■ 特に、1936年に誕生した『500（チンクエチント）』は、たくさんの映画に登場し、名脇役としてストーリーに彩を添えてきました。



■ 日本では「ルパン三世」の愛車としても有名ですね。

■ 1957年に登場して人気を博した2代目「Nuova500」は、そのデザイン性の高さと普遍性から、ニューヨーク近代美術館（ MoMA ）のモダン美術の永久展示品に選定され、『アート』としても高い評価を受けているんですよ。



■そして、この500の特徴は 3つのSで言い表すことができます。

StylishのS 丸くてキュートなフォルム、笑顔で微笑みかけているようなフロントフェイス、
イタリアンセンスで彩られたハッとするほどお洒落なインテリア！

SmoothのS コンパクトだから、細い道で対向車とすれ違うのもラクラク。
街中のどんなパーキングにも駐車しやすいサイズ！

SafetyのS 7つのエアバッグに加え、横滑りを制御するESCや、車輪のロックによる滑走を低減するABS などを
標準装備しているので運転も安心！

では、フロントからご紹介して参ります。

■笑顔で微笑みかけているような可愛いフロントフェイスですが、カワイイだけののっぺりした造形ではなく、実はあらゆる箇所に凹凸（アウトツ）をつけて立体的な顔立ちをデザインしているんです。

■例えば、ヘッドライト外側の張り出しでダイナミックさを表現し、逆にこの部分を削り込むことで生まれたシャープなラインが光を反射して、フロントフェイスに輝きを与えています。

■ヘッドライトは明るさ十分のバイキセノンライトを採用しています。フロントフォグランプ、LEDデイランプも標準装備です。

■そして、このカタチにもご注目ください。前から見ると丸くてかわいいカタチなのですが、少し横からご覧いただくと、やや切れ長のまなざしに変化するのがおわかりいただけると思います。見る角度によって表情が変化するような大変凝ったカタチですが、実は数字の500の0をモチーフにデザインされているんですよ。

■このクロームモールと真ん中のFIATのロゴも以前より大きくなって、表情を引き締めています。ここに横長のモールが追加されたのも、デザインのポイントとなっています。



続きまして、サイドをご紹介します。

- ご覧のように、丸みを帯びてスーッと伸びるルーフラインがサイドに柔らかな印象を与えています。



- ボディサイズの割にドアは大き目になっていますね。

500は4人乗りですが、見た目には2ドアのパーソナルカーのような印象と上質感を持たせています。

- 後ほど室内をご覧いただきますが、サイドのデザインは後席空間を犠牲にすることなく、Cピラーをやや寝かせ気味に、バックドアガラスを立て気味にするなどの工夫により、デザインと室内空間を上手く両立させています。

次は、リアのご紹介です。

- テールランプは縦長のドーナツ型で、真ん中の部分はボディと同色になっています。個性的でスタイリッシュなカタチですから、走り去るリアも余韻を感じさせます。



続きましてラゲッジですが、

- ご覧のように想像以上の広さを確保しています。

横幅は90センチ、高さは58センチ、奥行きは55センチと、お買い物やちょっとした旅行の荷物などには十分な広さではないでしょうか。

- また、後席を倒すと奥行きが108センチに広がりますので、数値で比較すると185Lから550Lへと、積載容量はなんと3倍になるんです。

- 500は丸くて可愛いスタイルながら、使い勝手もいいクルマというわけですね。

続いて、後席をご紹介します。

■先ほどサイドビューでご覧いただきましたように、500は丸みを帯びたルーフラインが特徴的ですが、そのデザインだけを優先すると、どうしても後席の頭上空間が狭くなってしまいます。

デザインと空間の両立を図るために、例えば、Cピラーをやや寝かせ気味に、バックドアガラスを立て気味にするなどの工夫をしています。

頭上は、思いのほか高さがあることがおわかりいただけると思います。

お子様には十二分な空間、オトナの方の4名乗車でも窮屈に感じることはなさそうですね。

■シートは5:5分割可倒式になっていますので、荷物や人数に合わせてアレンジができます。

では、運転席をご紹介します。

■ ドアを開けた瞬間、ボディと同じカラーのインパネがパッと目に飛び込んできて、思わず歓声を上げるお客様も多いんですよ。この色彩感覚は、まさに明るく陽気なイタリアンセンスと言えるのではないのでしょうか。



■ メーター類やスイッチ類なども、丸や曲線をモチーフに取り入れたデザインですから室内に温かみがあります。

■ やや大きめの操作しやすいステアリングは、ご覧のようにエレガントなアイボリーのレザー巻きが標準装備で、上質感を演出しています。

■ 全体的にレトロ感あふれるインテリアですが、操作性はとても優れています。必要な時に直感的にスイッチ操作ができるように、設置する位置やカタチがよく工夫されているんですよ。

■ そして、センター上部に設置された7インチタッチパネルモニターですが、Uconnect®と連携して、例えばラジオやUSB入力に対応したメディアプレイヤー機能、Bluetooth®ハンズフリー通話機能はもちろん、Apple CarPlayやAndroid Auto™に対応し、ご自分のスマートフォン内のコンテンツを使うことができます。

■ スマートフォンを接続するだけで、タッチパネルから直接スマートフォン内のマップ、ミュージック、電話などが使えますし、SiriやGoogleアシスタントを利用して、音声入力で操作することもできます。

■ また、Apple CarPlayでも、Googleマップやナビタイムを使えるようになりましたので、普段使い慣れている地図でナビゲーション可能です。

■ シートのご紹介もさせてください。
ステアリングに合わせて、アイボリーとチェックでデザインされたファブリックシートは、適度なホールド性と座り心地で、ロングドライブも快適に過ごしていただけます。



ということで、FIAT 500をウォークアラウンドのスタイルでご紹介して参りました。 ありがとうございました。